

洋ランの 植え替えのコツ

植え替えと株分け

● 植え替え

根が鉢いっぱいになった株は、1~2まわり大きな鉢に植え替えます。植え替えは、毎年花を咲かせるための大切な作業です。2~3年に1回行いましょう。入手したばかりの開花株も、次の春に根鉢を崩さず簡単な植え替えをしてください。適期は、桜(ソメイヨシノ)が満開になる頃から。遅くとも5月末までには終わらせましょう。使用する用土は、バークなどの、植え替える前までと同質のものを使う方が株への負担が少なくなります。数年間育てて徐々に環境に慣れてきたら、洋ラン用の培養土などを使ってもよいでしょう。

● 株分け

バルブの数が増えて込み合ってきた場合(例えばバルブが12個ぐらいある場合)、生育が思わしくない時にいきます。根や芽が動き出す4月頃が最適ですが、遅くとも5月までには完了しましょう。数年経った株はバルブ数も増え、根も傷んでいますから「株分け」が必要になります。割った場合の1株が最低3~5バルブ以上になるように、バルブの根元に小型のこぎりや園芸用はさみを入れ、両手で切り離して古く腐った根を取り除きます。植込みの用土はほとんど軽石バーク・ココチップを使用しています。植替え用の鉢は水もちのよいプラスチック製か駄温鉢を使います。株分けの場合は鉢のサイズを小さくします。1株3バルブに分けるなら6号鉢ぐらいがいいでしょう。

作業手順

● 株を鉢から抜く



2週間前から水やりをストップすると抜きやすい

《おすすめ用土》



- 洋ランバーク
- 洋ランの培養土

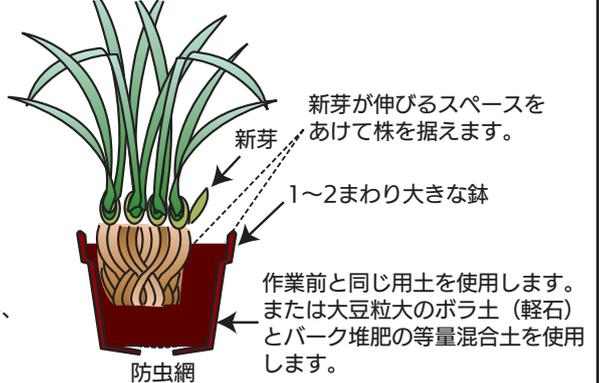
植え替え

● 根を整理する



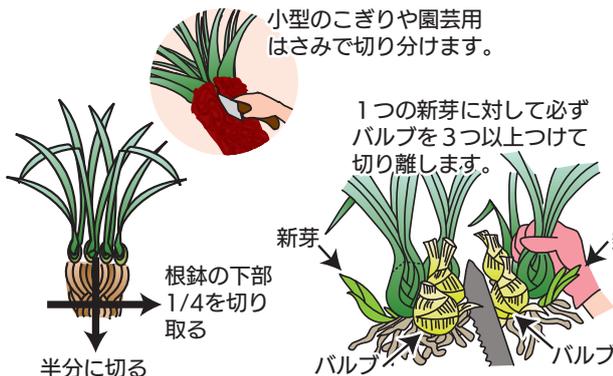
古い土を落としながら根をほぐし、黒く傷んだ根はカットします。

● 植えつける

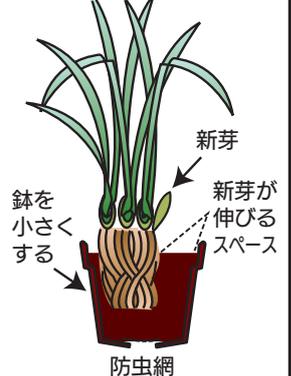


株分け

● 根を整理する



● 植えつける



植え替え作業後の管理方法

●肥料

10月～開花している期間中は肥料を与えないようにしましょう。洋ランは開花中は休眠期にあたり、この期間に肥料を与えると根を傷めます。

根が動き始める3月頃、液体肥料を1000倍くらいに薄めたものを週1回程度与えます。4月中旬～7月一杯は油カスの置肥を与えます。6号鉢で中粒5～6粒を、毎月1回夏まで与えます。

真夏の8月は一旦打ち切り、9月に液肥を与えましょう。施肥のメリハリが重要です。

●水やり

冬は休眠期ですが、花がしおれない程度に、鉢土が中までしっかり乾いたら水やりします。春からは気温の上昇とともに株も生長しますので、水分が必要となります。このため、鉢土の表面が乾いたらすぐにたっぷり与えます。真夏の水やりは朝夕2回行います。これは、朝は株を充実させるため、夕は株が過ごしやすい涼しい環境にするためです。9月以降は鉢土の乾き具合をみながら徐々に回数を減らしていきましょう。



●病害虫

気温が高くなるとナメクジ等が発生し、開花寸前のつぼみや新根の先端を食いちぎってしまいます。ナメクジ駆除剤を散布するか、夜に捕殺します。

また、つぼみの蜜を吸うアブラムシがつきますから、鉢を斜めにして水道水で洗い流すか、**やさお酢・ベニカXネクストスプレー**等で防除します。



●置き場所

春から秋までの生育期は屋外に置き、1日6時間以上日にあててください。ただし、7～9月だけは50～60%ぐらい遮光します。遮光ネットやよしず、木陰などを活用しましょう。秋の終わりまで屋外で十分に日光に当て、だいたい最低気温10℃ぐらいになったら室内に取り込みます。小さな花芽は、ひと霜あててから室内に移すと株が丈夫になり、よい花を咲かせることができます。



※緑の文字は、アヤハディオで取り扱っている商品です。

※掲載商品は予告なく変更する場合がございます。[禁複製]



アプリ限定クーポンでお得にお買物!!

アヤハディオアプリ 会員募集中!



**アヤカ
ポイントも
貯まる!**



アプリ
ダウンロードは
こちら▶▶



Download on the
App Store



ANDROID APP ON
Google play

